あるかは別に考える必要があるが、ここではQuirk *et al.*（1985：53）の考えをとる。範疇レベルではすべての文は7つの形式（SV; SVO; SVC; SVA; SVOO; SVOC; SVOA）のどれかに分類される。言い換えれば、これらのうちの形式のどれかに押し込めなければならない。7つの形式のうち、SVA; SVOC; SVOAが新しい構造を作り出す時に利用されることが多い。You must put all the toys upstairs. はSVOAの構造をなしており、upstairsは義務的要素であり、欠くことはできない。この形式を真似て、Marry kissed me on the lips. の形式が生じると考える。[1)]

このように、統語レベルの混交とは、7つしかない基本的な構造を利用して、表現の拡張を起こし表面的には他のものと同一の構造を生み出すことを言う。この混交は、場所や方向を表す前置詞句をつけ加えたり、結果を表す補語をつけ加えたりするほか、語彙レベルの混交との合成による興味ある形式がある。

次にあげる一連の構造は、基本的な構造を何らかの方法で拡張して生じた新たな構造である。[2)]

(15) a. Mary *kissed me on* the lips.
b. John *looked me in* the face.
c. Philippa *cried herself* to sleep. [Levin 1993 : 100]
d. The boy *pushed his way* through the crowd. [Levin 1993 : 99]
e. The audience *laughed the actor off* the stage.

これらの構造のうちで、特に（15c, d, e）は最近盛んに論じられているが、これらの構文は、最初から存在するものとしてそれをいかに分析するかという立場よりも、基本的な構造の拡張形であるという見方をして、それらが総合的にどのようなメカニズムで拡張したと考えるのが論理的な説明になるかを検討する。

2.2.1 前置詞句による拡大

Quirk *et al.*（1985：1201）は、

(16) a. The attendant *showed* us to our seats.
b. May I *see* you home?
c. He *elbowed* and *bribed his way* to fame.
d. They *talked* me into it.

の例をあげ、本来的には使役的な意味はもっていない動詞が使役的な意味をおびたものとしている。本稿では、（16a, b, c）は方向の指定、（16d）は使役として扱っている。（16b）はhomeが使われており、前置詞句ではないが同様に考えて問題はない。

2.2.1.1 場所の指定による拡大

Mary *kissed* me on the lips. のように、動詞が人を目的語にとり、前置詞句によって身体部分を明示する構文がある。これは、Levin（1993：148 *ff.*）ではBody-Part Possessor Ascension（身体部分所有者上昇）と言い、Mary kissed my lips. のmyで表される人が直接目的語の位置に上昇したとらえ、「衝撃による接触動詞」（contact by impact）[3)]、「poke動詞」、「接触動詞」（contact verbs）の類の動詞に現れるという。

(17) a. John *hit* the dog's back.
b. John *hit* the dog on the back.

で、（17a）が基本形で（17b）が派生形であるという考え方である。しかし、そう考えるよりはむしろJohn hit the dog. が基本形で、それに身体部分を明示する必要がある場合にそれを示したと考える方が合理的である。その理由は次の通りである。Levinのあげるリストの中（あるいは筆者の集めた類義語）で、（17b）の構造をとらないものが少なからずある。bash, hit, punch, slap, sting, strike, thump; kiss, lick, nudge, pat, prod, tickle, touch; seize; shoot はとるが、beat, box;

1) SVCも拡大のための構造として利用される。例だけをあげておく。
（i）a. The sea-gull *arose glutted* from the fish cannery beach and . . .[J. Steinbeck, *Tortilla Flat* (1935)]
b. . . . and a second later a parachute *blossomed open* and . . . [C. Cussier, *Raise the Titanic* (1976)]
c. Spaghetti arrived *steaming* hot. [B. Malamud, *Still Life* (1962)]
d. The pistol *clicked empty*. [E. Hemingway, *A Farewell to Arms* (1929)]

2) 必ずしも歴史的な観点からではない。

3) 実際に身体への接触を含意する場合のみに可能であることから「接触動詞」という名称を使う。cf. *He hit at me on my head. このような観察については後藤（1995）を参照。この事実は後にとりあげる視覚動詞の ?John looked at me in the face.が普通でなく、John looked me in the face.が普通であることとも関連する。